学校番号	３００２

令和８年度　農業科（資源動物科）

教科	農業	科目	(学)ヒトと動物	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

2 年次ヒトと動物では、ヒトと動物との関わりについて、「動物の飼育・歴史・行動」を主な題材とし、座学を通して学習します。
動物の身体的特徴、行動、感覚、学習、コミュニケーション方法、病気、適切な飼育方法など、実際の動物飼育において直接的に生かせる知識を学ぶとともに、動物福祉を含めた飼育者としての責任についても学習し、道徳的な思考も身につけます。また、動物の家畜化の歴史、ヒトとのかかわりの中でどのように進化してきたかを学ぶことで、動物への理解を深めます。
そして、身につけた知識や技術を動物の飼養管理実習に活かすことを最終的な目標とします。

2　学習の到達目標

【知識及び技術】
家庭動物の飼育方法や動物行動学を理解し、動物飼育に必要な知識を習得する。
【思考力、判断力、表現力等】
動物を取り巻く問題を正しく理解し、現代社会と動物の関わりについて自ら考え、課題を解決しようとする。また、動物の行動原理を学ぶことで、ヒトと動物の双方の視点から物事を考察する力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】
動物の飼育・歴史・行動について、興味・関心を持ち、自ら主体的に実践的に学ぶ態度を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・ヒトと動物の関係について、また、動物の行動学と動物観、ヒトとの関わりについて理解している。 ・社会動物・家庭動物等について、動物の生理や社会の発展と動物介在、動物のとの共生について総合的に理解している。	・動物を活用するうえで動物愛護や倫理とのバランスや社会との関わり方について考えることができる。 ・動物のからだや生態を理解し、ヒトと動物の双方の視点から、動物との関係を考えることができる。	・ヒトと動物の関係と共進化、共生と発展について、興味・関心を持ち、自ら主体的に実践的に学ぶ態度を身に付けている。 ・動物の行動に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価基準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	家庭動物	イヌのからだ・イヌの適切な飼育管理 ネコのからだ・ネコの適切な飼育管理 そのほかの哺乳類・愛玩鳥・爬虫類のからだ・適切な飼育管理 家庭動物の現状とヒトに与える効果 災害への備え	a: 動物ごとの身体的特徴・感覚能力・ライフステージを正しく理解している b: 動物の身体的特徴・感覚能力・ライフステージから、動物に適切な飼育管理の方法を考えることができる c: 家庭動物とヒトとの関係に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる	授業観察 ノート 定期考査 レポート 発表	授業観察 ノート 定期考査 レポート 発表	授業観察 ノート レポート 発表
2学期	動物の家畜化とヒトの進化の歴史	動物の家畜化の歴史 野生下と飼育下における動物の生態 ヒトと動物の関係の歴史 動物における他種との共進化	a: 動物ごとの家畜化の歴史と動物がヒトとの関係の中でどのように活用されてきたかを正しく理解している b: ヒトと動物の関係の歴史・家畜化の歴史を正しく理解し、ヒトとの関係を歴史の視点から考えることができる。 c: 動物の家畜化の歴史と動物の関係史に関心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる	授業観察 ノート 定期考査 レポート 発表	授業観察 ノート 定期考査 レポート 発表	授業観察 ノート レポート 発表
3学期	動物行動学	動物行動学の概要と歴史・研究手法 動物の感覚 動物の本能と学習 動物の社会とコミュニケーション	a: 動物の行動要因である感覚能力・本能・学習・社会・コミュニケーションについて学習し、動物の行動を行動要因から理解することができる b: 動物の行動に対して疑問を持ち、その行動がなぜ起こるのかを科学的な視点で考察できる c: 動物の行動に関心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる	授業観察 ノート レポート 定期考査 発表	授業観察 ノート レポート 定期考査 発表	授業観察 ノート レポート 発表

※ 表中の観点について a:知識・技術 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度